

(研修概要) つながりあって、子どもを守り育てる

～コロナ禍における健康教育のあり方を学ぶ～

山口市立潟上中学校 原田 紹子

I. 目的

本サークルは、平成25年度に萩市で発足したサークルである。今年10年目を迎え、萩市内外から養護教諭が集まり、『ミツバチのように、萩に集まった養護教諭が研修で得た知識を各学校へ持ち帰り、子どもたちに還元したい』という想いのもと、研修に取り組んでいる。参加者は、養護教諭として県内で働いており、日々、保健室で様々な健康課題を抱えた児童生徒たちと関わっている。その中で、児童生徒が生きにくさを感じているのではないかと感じるがあった。そこで、今年度は、児童生徒が、生涯健康に生きるためには、今、何が必要なのかを考え、コロナ禍における健康教育のあり方を学ぶこととした。

II. 活動の概要

1 講演会の実施

(1) 講師 萩市学校薬剤師 河村 明美先生

演題「感染症対応について」

令和4年7月20日 学校薬剤師 河村先生を講師に招き、感染症予防についてお話いただいた。教育現場で新型コロナウイルス等の感染症を広げないための、正しい嘔吐処理（消毒）の手順について学んだ。その後、河村先生の助言を受けながら、実際にビニールエプロンや、ビニール手袋、マスクを着用する実技演習を行い、参加者全員が、正しい嘔吐処理方法を身につけることができるようになった。

(2) 講師 幼児教育専門家 熊丸 みつ子先生

演題「子どもたちのしあわせのために 今、私たちができることは」

令和4年10月8日 幼児教育専門家 熊丸みつ子先生を講師に招き、コロナ禍での子どもたちと関わり、子どもたちを幸せにする責任のある私たちが、養護教諭として、何を大切にしなければならないかをお話いただいた。参加者からは「人としての成長発達の仕組み、生きていることの意味・幸せをわかりやすく楽しく伝えていただいた」「『足りていないものは、今からでも取り戻せる』という言葉信じて、その子の成長を見守っていきたい」などの感想が寄せられた。

(3) 講師 光市立浅江小学校 養護教諭 徳田 頼子先生

演題「若手養護教諭に期待すること」

令和4年11月23日 やまぐち総合教育支援センターで研究指導主事を務

められた徳田先生を講師に招き、養護教諭としてどのような人生を歩んでいきたいか、自身の経験を交えながらお話しいただいた。講演の中で、「子どもの声なき声を聞ける養護教諭になってほしい」「養護教諭として『子どもたちが自分たちで作る健康文化』を意識して働きかけてほしい」というメッセージがあり、参加者は自校での取組を振り返りながら、改めて自身の目指す養護教諭像や、キャリアステージについて考えることができた。

2 定例学習会の実施

毎月第2土曜日の9：00～12：00とし、年間計画をもとに実施した。

開催日	研修内容
4月16日(土)	学校安全について
5月14日(土)	I C Tの活用について
6月12日(土)	保健指導・教材作り
7月20日(土)	学校薬剤師 河村明美先生に学ぶ
8月20日(土)	1学期の振り返り 異校種 保健室訪問 【新型コロナウイルス感染症流行のため中止】
10月8日(土)	幼児教育専門家 熊丸みつ子先生に学ぶ
11月23日(水)	先輩養護教諭 徳田頼子先生に学ぶ
12月10日(土)	2学期の振り返り・フラワーアレンジメント
1月14日(土)	オンライン研修) 三木とみ子先生に学ぶ
2月11日(土)	保健室での児童生徒との関わり方について
3月11日(土)	本年度の振り返り・来年度の計画

定例学習会では、養護教諭の職務の基本となる研修内容とし、「明日、実践にうつせる学び」をめざし、先輩養護教諭である吉松文子先生の指導、助言を受けた。

コロナ禍で、タブレットやI C Tの活用が求められているが、それらの実践経験がない養護教諭や苦手意識を持つ養護教諭もあり、Google Formsを使ったアンケートの方法や、各校での取組についてお互いに学び合うことで「自分でもできる」「これならできる」といった自信につなげることができた。

また、オンライン研修では、「養護教諭および栄養教諭の資質向上調査研究協力者会議」に養護教諭代表の一人として出席された三木とみ子先生と、「養護教諭の役割（職務の範囲の明確化）」について意見交換を行った。三木先生の熱い思いを聞きながら、参加者一人ひとりが、今後の養護教諭の役割について考えを深めることができる貴重な機会となった。

Ⅲ. 研修の成果と今後の課題

新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、学校保健を担う養護教諭が集まり、感染症予防の方法や、消毒に関わる手技を学べたことは、とても有意義であった。参加者の中には、学校での消毒の際、教職員への指示がスムーズにできたという声も聞かれた。外出自粛に伴うメディア視聴時間の増加による視力低下や、生活リズムの乱れに対する保健教材の作成では、保健室前に掲示したり、体重測定時の保健指導に使用したりし、自校の状況に合わせて活用することができた。

参加者同士の情報交換の中で、「感染症対策のため、マスクを着用していることでお互いの表情が分かりにくく、保健室来室者との信頼関係の構築が難しい状況が続いている」ことが課題として挙げられた。来年度は、保健室来室者との円滑なコミュニケーション方法や、不安定な心に寄り添うためのメソッドなど、子どもとの関わりをより丁寧に行うための研修も計画、実施していきたい。

また、本サークルは、「新規採用の養護教諭が気軽に相談できる場」としてスタートした。今年、10年目を迎え、新規採用者から経験10年以上の養護教諭まで、メンバーの構成も幅広くなった。ひとり職である養護教諭（参加者）が、つながり合いながら続けてきた本サークルを、今後も、学びを深める場、心のよりどころとなる場にしていきたい。

最後に、本年度も、山口県教育会の助成金のおかげで実りある研修を行うことができたことを、深く感謝したい。

